

# 森林保険通信・10月号



(挿絵:平田美紗子作)

## 王子木材緑化(株)を訪問

森林保険にご加入いただいている王子木材緑化(株)営業本部林業部荒井部長と木暮副部長に社有林についてお話を伺ってきました。(王子木材緑化:王子 森林保険センター:保セ)

保セ:社有林の概要を教えてください。

王子:王子グループでは環境行動目標として「持続可能な森林経営」を掲げ、森林の持つ多様な機能の保全と資源の持続的な活用を両輪として事業に取り組んでいます。

森林面積は、国内に民間最大となる約19万haの社有林を有しており、そのうちの分収林を除く17万haが森林認証(SGEC)取得森林です。

海外でも約28万haの植林地を有しており、こちらも森林認証の全山取得を目指しています。

保セ:森林保険には、どのような森林が加入しているのですか。

王子:社内基準を作成しており、干害や寒風害を受けやすい新植後5年間は森林保険に加入しています。森林経営を持続する上で、経済的なリスクを回避するために森林保険は重要な制度と考えています。実例として、台風災害後の復旧造林地が大規模な凍害を受けた時には、保険によりわずかな負担で改植でき、大変助かりました。

保セ:森林保険のご利用ありがとうございます。皆様のお役に立てるよう、ますます頑張っていきたいと思えます。



## 研究者の声:儲かる林業の実現

林業経営の研究者である(研)森林総合研究所林業研究部門林業経営・政策研究領域林業システム研究室の久保山室長に現在研究テーマにされている『儲かる林業』についてお話を伺ってきました。(森林総研:森研 森林保険センター:保セ)

保セ:『儲かる林業』を実現するための課題は何ですか？

総研:まずは、製材・加工業のインフラを整備、強化、拡大することによって、川下の木材需要を拡大させつつ、一方で木材が山から川下まで出てくる間のコスト(造林コスト、路網整備コスト、伐出コスト、流通コストなど)を少しでも下げ、外材に負けない競争力をつけることが必要であると考えています。



(総研:久保山室長)

日本の製材・加工業は外材に対する競争力が乏しかったのですが、ここ5年間で規模の大きな製材・加工工場が増加しており、競争力は向上しています。

保セ:森林保険についてどう思われますか？



(保セ:阿部)

総研:森林保険の加入率が低迷しているのは、林業収入の低下が一因だと思います。儲からないものに保険はかけません。しかし、これから『儲かる林業』を実現していくことで、森林保険の意義は大きくなってくると思っています。

## 森林保険Q&A ～お答え～

森林保険とは、「森林保険法」(昭和12年法律第25号)等に基づき、森林所有者を被保険者として、森林についての火災、気象災(風害、水害、雪害、干害、凍害、潮害)、噴火災による損害を総合的に補償する保険です。

森林保険は、森林所有者自らが災害に備える唯一のセーフティネットとして、林業経営の安定、被災地の早期復旧による森林の多面的機能の発揮に大きな役割を果たしています！



### しつもん!

森林保険ってなんですか？

